

第2学年 国語科 学習指導案

日時:平成29年9月25日(水)~10月5日(木)

場所:東京学芸大学附属高等学校

対象:2年H組

授業者:森合 陽紀、糸井 満里奈、池上 誠

指導教諭:浅田孝紀先生

1. 単元名『枕草子』(教育出版 古典B 古典編)

2. 単元の目標

①作者である清少納言について関心を持ち、内容や表現のしかた、他の文献等から積極的に理解しようとしている。【国語への関心・意欲・態度】

②文章に表れているものの見方や考え方について、知識や体験と関連付けながら、自分の考えを持つことができる。【読む能力】

③『枕草子』の表現の特色を把握し、言語表現に対する理解を深めることができる。【知識・理解】

3. 単元の評価規準

関心・意欲・態度	読む能力	知識・理解
<ul style="list-style-type: none">古文に書かれた内容や時代背景、作者について関心を持ち、進んで意見や感想を交流しようとする。内容や表現の仕方、他の文献などから、作者の特徴や性格を捉えようとしている。	<ul style="list-style-type: none">抽象的な概念を表す語句や心情を表す語句などに注意して読むことができる。文章に表れているものの見方や考え方について、知識や体験と関連付けながら、自分の考えをもつことができる。内容や表現のしかたに注目し、作者や時代背景を正確に読み取ることができる。	<ul style="list-style-type: none">重要な古語や文法を理解することができる。本文の表現の特色を把握し、言語表現に対する理解を深めることができる。

4. 教材観

『枕草子』は平安時代中期に清少納言によって書かれた随筆文学である。のちに作られることとなる、鴨長明の『方丈記』(鎌倉時代初期)、兼好法師の『徒然草』(鎌倉時代後期)に立つ三大随筆のはじめとして位置付けられている。また、構成としては、約三百の章段から成っており、以下のように大別される。①類聚的章段②日記的章段③随想的章段であり、それぞれ①ある主題のもとに連想された物事を集めた章段、②宮仕えの体験を記した章段、③自然や人事に関する感想を叙述した章段、として成っている。

今回扱う文章は、『枕草子』の中の「かたはらいたきもの」「すさまじきもの」「九月ばかり」の三つであり、前二つは類聚的章段、「九月ばかり」は随想的章段にそれぞれ位置づけられている。清少納言が見聞きして苦痛なものを書く「かたはらいたきもの」と、興ざめだと感じるものを書く「すさまじきもの」は、主に清少納言が何をもってそうだと感じるのかを文章中から読み取ることを中心としつつ、どのようにその単語が使われているのか、その単語は文書中に変化はあるのか、ということを読み取っていくことができればよいと考える。また、「九月ばかり」は、自然についての感想が書かれており、自分と他人との感受の違いを「をかし」という点について、書かれていることが興味深い文章となっている。

授業の中では、主に、作者である清少納言や、『枕草子』そのものと、同時代の作品での単語の使われ方の違いや、現代までに続く感覚などとの対比を中心に授業を行い、過去と現在を繋げながら古典作品を読み解いていくことができるような学習を進めていきたいと考えている。

5. 指導観

『枕草子』は類聚的章段、日記的章段、随想的章段から成っており、各章段の特徴をおさえる必要がある。また、単語の使われ方や文章中での変化、文法の要点を丁寧におさえていき、清少納言の感性を読み取っていくことが求められる。

「かたはらいたきもの」では、単語の使われ方を他の文献と比較し、「すさまじきもの」では自分の感覚と清少納言の感覚を比較していく。「九月ばかり」では、本文から読み取れる作者の性格を出発点として、図書館でさまざまな文献から作者の性格をさらに掘り下げていくことで、清少納言について理解を深めることができ、より『枕草子』への関心を高めることができると考える。

授業の中では、教師が一方向的に話をしたり、知識を教え込んだりするような受け身の授業ではなく、ペア学習やグループ学習などの中で考えたり、話し合ったり、書いたりする場面を多く作り、生徒が主体的に参加できる授業を展開していくことが大切である。

6. 単元計画

	○主な学習活動	◇評価【評価の観点】
1	<ul style="list-style-type: none"> ○「九月ばかり」の前半部の口語訳を確認していく。 ○「九月ばかり」の後半部の口語訳を確認していく。 ○「人の心にはつゆをかしからじと思ふこそ、またをかしけれ。」という言葉から、清少納言の性格を考える。 	◇前半(叙景)と後半(叙景→批評)の違いに気づき、口語訳を作ることができる。 【読む能力】【知識・理解】 (ノート・発言) ◇作者の自然を見る視点の鋭さや評論家的正確に気づき、それに対して自分の考えを述べる ことができる。 【関心・意欲・態度】【知識・理解】 (ノート・発言)
2	<ul style="list-style-type: none"> ○目的を明確にし、活動の手順を確認する。 ○グループ別の活動 ○各グループごとの発表 	◇清少納言の性格について積極的に調べることができる。 【関心・意欲・態度】 (ワークシート) ◇グループとしての考えを発表することができる。 【関心・意欲・態度】【知識・理解】 (ワークシート・発表)

第2学年 国語科 学習指導案

日時:平成29年10月4日(水) 校時

場所:東京学芸大学附属高等学校

対象:2年H組

授業者:池上 誠

指導教諭:浅田孝紀先生

1. 単元名「枕草子 長月ばかり」(教育出版 古典B 古典編)

2. 本時のねらい(1/2)

- ・前半(叙景)と後半(叙景→批評)の違いに気づき、清少納言の鋭い批評家精神を感じる。
- ・晩秋の季節感、庭の植込みに置く梅雨の姿をさらりと書きとめた、繊細な感覚美、短章ゆえに鋭く描出する新鮮な筆致を味読させる。

3. 本時の評価

- ・前半(叙景)と後半(叙景→批評)の違いに気づき、口語訳を作ることができる。
- ・作者の自然を見る視点の鋭さや評論家的性格に気づき、それに対して自分の考えを述べることができる。

4. 本時の展開

時間	○学習事項	指導上の留意点(◎)手だて(◇)評価(◆)
導入 (5分)	<ul style="list-style-type: none"> ○「九月(長月)」「ばかり」や陰暦の確認をする。 ○本文の季節はいつごろか確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎「長月ばかり」は随想的章段であることを確認する。 ◎「長月」は太陽暦の十月上旬から十一月上旬で、夜がだんだん長くなることに由来。「ばかり」は副助詞で「ころ・くらい(程度)」の意。「だけ(限定)」ではないことを確認する。
展開 I (15分)	<ul style="list-style-type: none"> ・前半(九月ばかり～あはれにをかしけれ。) ○1文ずつ読み、口語訳を確認していく。 【語釈と文法】九月ばかり(=露こぼるばかり)、夜一夜、降りあかし、けざやかに、前栽(せんざい)、透垣(すいがい)、羅文(らもん)、かいたる、こぼれ残りたるに(≠露こぼるばかり)、白き玉を... 【文法の要点】さし出でたるに、こぼれ残りたるに ○なぜ前栽は「ぬれかかりたる」なのか。 ○なぜ蜘蛛の巣は「こぼれ」たのか。 ○「白き玉を貫きたるやうなる」はどのような様子か。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎「九月ばかり」と「露こぼるばかり」の「ばかり」が程度の意。 ◇透垣、羅門は教科書の挿絵を見て参考にする。 ◎「夜一夜」の雨により前栽が「ぬれかかりたる」ことを確認する。 ◎「夜一夜」の雨により蜘蛛の巣が「こぼれ」たことを確認する。 ◇「白き玉を貫きたるやうなるこそ」は教科書の注釈を参考に、「白露」が「白き玉」のように見え、「蜘蛛の巣」が「糸で貫きたるやう」であることを確認する。
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">前半(叙景)と後半(叙景→批評)の違いに気づき、清少納言の鋭い批評家精神を感じる。</div>	
展開 II (15分)	<ul style="list-style-type: none"> ・後半(すこし日～またをかしけれ。) ○一文ずつ読み口語訳を確認していく。 【語釈と文法】日たけぬれば、ふと、かみさま、と言ひたる 	<ul style="list-style-type: none"> ◎「萩など」が今までは露を帯びて「重げなる」ことを確認する。 ◎「つゆをかしからじ」には「露」がかかっていることを確認する。 →露の三視点から作者の自然を見る視点の鋭

分)	<p>【文法の要点】手ふれぬに、露の落つるに、こぼるばかり、つゆをかしからじ</p> <p>○「萩などのいと重げなるに」はなぜ「重げなる」なのか。</p> <p>○「をかし」「をかしからじ」「をかしけれ」の部分は、誰が、何を、「をかし」または「をかしからじ」と思うのか。</p> <p>【個人(2分)→ペア(1分)→全体(2分)】</p>	<p>さを確認する。</p> <p>◎風景を感じる「をかし」と、もののとらえ方の違いに気づく「をかし」の両方が使われている。</p> <p>◇「をかし」「をかしからじ」「をかしけれ」に注目させ、ペアで話し合わせる。</p> <p>◆前半(叙景)と後半(叙景→批評)の違いに気づき、口語訳を作ることができる。【読む能力】【知識・理解】(ノート・発言)</p>
まとめ (15分)	<p>・まとめ</p> <p>○「人の心にはつゆをかしからじと思ふこそ、またをかしけれ。」という言葉から、筆者のどのような性格がうかがえるか。</p> <p>【個人(2分)→グループ(5分)→全体(8分)】</p>	<p>◎「他の連中は感受性が鈍いから、こんな微妙な点に趣を感じるなんてないのだわ」と、そう思うこと自体に満足している。また、この筆者らしい自信に満ちた誇らしげな様であるとともに、自己の見解を客観的に批判する評論家的性格がうかがえることを確認する。</p> <p>◆作者の自然を見る視点の鋭さや評論家的性格に気づき、それに対して自分の考えを述べるができる。【関心・意欲・態度】【知識・理解】(ノート・発言)</p>

第2学年 国語科 学習指導案

日時:平成29年10月5日(木) 校時

場所:東京学芸大学附属高等学校図書館

対象:2年H組

授業者:池上 誠

指導教諭:浅田孝紀先生

1. 単元名「枕草子 長月ばかり」(教育出版 古典B 古典編)
2. 本時のねらい(2/2)
 - ・清少納言の性格について調べる活動を通して、清少納言に関する理解を深める。
3. 本時の評価
 - ・清少納言について積極的に調べ、グループとして考えたことを発表することができる。
4. 本時の展開

時間	○学習事項	指導上の留意点(◎)手だて(◇)評価(◆)
導入 (5分)	1. 目的を明確にし、活動の手順を確認する。	◎付箋の書き方や活動の手順を説明する。 ◎前時のまとめで生徒が発表した清少納言の性格が本当にそうなのか、他にも違う一面があるのか、さまざまな文献から考えさせる。
清少納言の性格は本当に○○○(前時のまとめ)なのか調べよう。		
展開 (30分)	2. グループ別の活動 【活動1】清少納言について書かれた作品を読み、清少納言の性格についての情報を集める。 【活動2】集めた情報をもとに、カテゴリごとに分類する。	◇グループに1枚ワークシートを配り、付箋を活用することで、情報を視覚化し、整理しやすくする。 ◎情報が少ないグループには、机間指導でサポートする。 ◆清少納言の性格について積極的に調べることができる。【関心・意欲・態度】(ワークシート)
まとめ (15分)	3. まとめ ○各グループごとに発表。	◇カテゴリ化した分類(性格)とその根拠にしたもの(作品・文)を発表させる。 ◆グループとしての考えを発表することができる。【関心・意欲・態度】【知識・理解】(ワークシート、発表)

☆準備するもの:付箋、ワークシート、本

☆図書館で使用する本について・・・清少納言の性格について言及しているものや性格を想像できるものを使用する。平安時代～現代の作品まで幅広く扱いたい。(※先生方と相談)